

国際人文学部 国際交流学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	ディプロマ・ポリシー	158
II	カリキュラム・ポリシー	158
III	授業科目について	159
IV	授業科目の単位と認定	160
V	卒業に必要な単位について	160
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	161
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	162
	1. 学科共通科目群	162
	2. キャリア形成科目群	166
	3. 専門基礎科目群	167
	4. 専門科目群	170
VIII	履修申請について	176
IX	正規の履修からはずれる場合	176
X	試験について	177
XI	授業科目の単位認定と進級および留年	178
XII	成績発表	179

履修の手引きと手続き

I ディプロマ・ポリシー

国際人文学部国際交流学科は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（国際交流）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- 英語と選択した第二外国語について、その言語と文化、社会を理解している。
- 国際的な視野から、日本語と、日本の文化と社会を理解している。
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働をおこなうための広い視野と教養を学んでいる。

2. 汎用的技術

- 英語と選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- 日本語を読み、書き、聞き、話す能力を十分に持ち、国内及び国際的な場で日本語によって積極的なコミュニケーションをおこなうことができる。
- 国際的な視野を持ち、国際交流を実践できる社会人として必要な基礎的な知識やスキルを身につけている。

3. 態度・志向性

- 日本語と外国語のいずれによっても、自己を適切に表現し、相手と積極的にコミュニケーションを進めることができる。
- コミュニケーション能力と国際交流に関する知識を備え、かつ社会人として必要な倫理と協調性、リーダーシップをもって行動することができる。
- 異なる言語・文化・社会に寛容であり、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

4. 総合的な学習経験と創造的思考力

- コミュニケーション能力と言語・文化・社会に関する広範な教養と専門知識、国際交流の知識とスキルを活用し、課題を発見し、解決をはかる能力を身につけている。

II カリキュラム・ポリシー

国際人文学部国際交流学科では、教育研究上の目的に基づき、国内外の国際的な場で活躍する人材の養成のため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- 実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得するために、学科共通科目群 I（語学）を配置する。

- 留学生・指定された帰国生徒等を対象とし、日本語コミュニケーション能力の向上をはかるために、学科共通科目群Ⅰ（語学）を配置する。
- 情報化社会で必要な、コンピュータに関する知識とスキルを習得するために、学科共通科目群Ⅱ（情報）を置く。
- グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にするために、学科共通科目群Ⅲ（教養）を置く。
- 大学での学習に必要なスキルと社会人となるための基礎力を身につけ、学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現するため、初年次教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群を設置する。
- 第二外国語と世界の文化について学ぶために専門基礎科目Ⅰ（世界の文化と言語）を置く。また、専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）を配置し、国際社会・国際交流・国際協力・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎とする。
- 国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身につけるために専門科目群Ⅰ（国際交流・協力）を置く。
- 言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、英語・日本語とその言語教育に関わる専門的な知識・スキルとコミュニケーション能力を身につけるために、専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）を置く。
- より高度な英語力を実践的に身につけるために、専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）を置く。
- 演習および研修・インターンシップを通して、専門的な知識を学び、その実践と発展を図るために専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）を置く。
- 教職課程で学ぶ学生のために、専門科目群Ⅴ（教職関連）を配置する。
- 多様な学びを実現するために、学科として、教職・学芸員課程、および日本語教員副専攻を奨励する。また、学生が自らの学びを深めるために、自主選択科目枠を設ける。
- 学生が学修成果を自覚し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の達成度を意識・評価し、自らの成長につなげるために学修アセスメントに関連するプログラムを実施する。

Ⅲ 授業科目について

国際人文学部国際交流学科における授業科目は学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、キャリア形成科目群、専門基礎科目群Ⅰ・Ⅱ、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴから構成されている。

なお、専門科目群Ⅴは、教職に関する科目群であり、卒業単位には算入されない。ただし、各教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ、卒業単位に含めることができる。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。なおN・Hは、単位振替により単位を認定したことを表す。

Ⅴ 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

専門科目群Ⅴは卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	
	国際人文学部	国際交流学科
	必 要 単 位 数	
学科共通科目群Ⅰ（語学）	22	
学科共通科目群Ⅱ（情報）	4	
学科共通科目群Ⅲ（教養）	4	
キャリア形成科目群	8	
専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）	10	
専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）	14	
専門科目群Ⅰ（国際交流・協力）	8	46*
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	8	
専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）	0	
専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）	8**	
専門科目群Ⅴ（教職関連）	なし***	
自主選択科目。自らの学びを深めるために、上記の科目群（専門科目群Ⅴ（教職関連）を除く）より、それぞれの科目群で指定された単位数とは別に、卒業に必要な単位を10単位以上、修得すること。他学科履修として、国際文化学科の科目をこれに加えてもよい。経営情報学部、メディア学部、福祉総合学部福祉総合学科、環境社会学部、観光学部の科目も、科目によってはこれに加えてもよい。	10	
計	126単位	

* 国際交流学科には「国際交流・協力」と「国際コミュニケーション」の2つの領域がある。専門科目群Ⅰより8単位以上修得すること。専門科目群Ⅱより8単位以上修得すること。また専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で、46単位以上修得すること。

** 卒業論文を履修しない場合は、専門科目群Ⅰ～Ⅳより卒業論文に替えて4単位を修得すること。

*** 各教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ、卒業単位に含めることができる。

Ⅵ 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」及び1年次の必修科目を含め36単位以上を修得しなければならない。

各学年における科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、各学期の履修登録については30単位までとし、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

科目群	必修/選択	1年次	2年次	3年次	4年次	小計	科目群合計	必修科目
学科共通科目群Ⅰ (語学)	必修	14	6			20	28	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II・III TOEIC I・II Basic Writing Skills Intermediate Practical Discussion Skills
	選択		2	4	2	8		Intermediate Reading Skills Intermediate Writing Skills
学科共通科目群Ⅱ (情報)	必修	4				4	4	コンピュータ技能Ⅰ
学科共通科目群Ⅲ (教養)	選択		4			4	4	
キャリア形成科目群	必修	2	2	1		5	8	基礎ゼミⅠ・Ⅱ 就職キャリア演習b
	選択	2		1		3		
専門基礎科目群Ⅰ (世界の文化と言語)	選択	4	4	2		10	10	
専門基礎科目群Ⅱ (国際教養関連)	必修	2	4			6	14	国際日本学 政治学入門 経済学入門
	選択	2	2	4		8		
専門科目群Ⅰ (国際交流・協力)	選択	4	6	6	4	20	20	
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	選択	4	6	6	4	20	20	
専門科目群Ⅲ (英語プロジェクト)	選択		2	4	2	8	8	
専門科目群Ⅳ (ゼミ研修・実践)	必修			2	2	4	10	国際交流演習Ⅰ・Ⅱ
	選択	2			4	6		
専門科目群Ⅴ (教職関連)								
学年別修得単位数 計		40	38	30	18	126	126	

※ 学科共通科目群Ⅰにおいて、外国人留学生は日本語科目16単位を含み22単位を選択必修

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとする。「ⅠA・ⅠB」は原則として、ⅠAを先に履修すること。
- (2) 「a・b」はどちらを先に履修してもよい。また、どちらか一方のみの履修も可とする。
- (3) ただし、実際の履修については、シラバスに記された各科目の履修要件をよく読み確認すること。
- (4) 単位数を○で囲んだ科目は、必修を示す。
- (5) 本学は春学期・秋学期の二学期制をとっている。大多数の科目は、どちらかの学期に開講される。ただし、一部に一年間（春学期・秋学期）を通して履修する通年科目がある。また、夏期と冬期には集中講義期間があり、集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (6) 全ての授業科目は、年度初めに履修登録を行う。
- (7) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに指定されている科目でも、2年次以上になってから履修できる。但し、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。
- (8) 履修を指定された必修科目が自分の取りたい必修以外の科目と重複した場合には、必修科目の履修を優先すること。
- (9) クラスA・クラスBといったクラス分けは、履修指導の一環として設けられているクラスである。クラス指定は、履修者数が偏らないように必修科目などで設定されていることが多い。クラスの指定がある科目は、それぞれ指定されたクラスで履修すること。
- (10) 語学・演習・実習科目においては、原則として週1回の授業につき一学期（15週）で1単位を付与する（たとえば、2単位の語学科目の場合、週2回同じ科目の授業がある）。
- (11) 講義系の科目においては、原則として週1回の授業につき一学期（15週）で2単位を付与する（たとえば、2単位の講義科目の場合、週1回授業がある。4単位の講義科目の場合は週2回授業がある）。

1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、学科共通科目群Ⅰ（語学）、学科共通科目群Ⅱ（情報）、「学科共通科目群Ⅲ（教養）」の3科目群に分かれている。それらの各科目群の中から「Ⅲ 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位を修得しなければならない。

(1) 学科共通科目群Ⅰ（語学）

実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得することを目的として

いる。国際交流学科の特徴の一つは充実した英語教育であり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に身につけることを重視している。そのため、1年次には8科目14単位を、2年次には3科目6単位を必修としている。

英語の必修科目では、原則として能力別のクラス分けがなされている。履修するクラスは、年度末（新入生は年度当初）の英語能力テスト（プレイスメント・テスト）によって決定される。このテストを必ず受け、指定されたクラスを履修しなければならない。個人の都合で指定されたクラスを勝手に変更することはできない。

留学生と指定された帰国生徒等は、日本語コミュニケーション能力の向上を図るために、1年次と2年次に4科目8単位ずつを履修し、4年間で22単位履修する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 I (語 学)	Fundamentals of English I	②				22 単位	必修 20 単位を含み 22 単位以上選択必修
	TOEIC I	①					
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II	②					
	TOEIC II	①					
	Oral Fluency II	②					
	Basic Writing Skills	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills	②					
	Intermediate Reading Skills		②				
	Oral Fluency III		②				
	Intermediate Writing Skills		②				
	TOEIC: Vocabulary I	2					
	TOEIC: Grammar & Listening I	2					
	TOEIC: Vocabulary II		2				
	TOEIC: Grammar & Listening II		2				
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
Advanced Reading Skills			2				
Oral Fluency IV			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 I (語 学)	Business English Writing			2		留学生・指定された 帰国生徒対象	
	Spoken Business English			2			
	English Pronunciation	2					
	日本語中上級 a (総合)	2					
	日本語中上級 b (受容)	2					
	日本語中上級 c (口頭産出)	2					
	日本語中上級 d (筆記産出)	2					
	日本語中上級 e (言語知識)	2					
	日本語中上級 f (聴解)	2					
	日本語中上級 g (読解)	2					
	日本語上級 a (総合)		2			日本語科目 16 単位 を含み 22 単位を選 択必修 (但し、日本語力が 十分な水準に達して いると判断される学 生は、必修 22 単位 のうち 8 単位分まで 「学科共通科目群 I」 の日本語以外の科目 で習得することがで きる。)	
	日本語上級 b (映像作品の 日本語)		2				
	日本語上級 c (現代文章を 読む)		2				
	日本語上級 d (口頭発表)		2				
	日本語上級 e (論文作成)		2				
	ビジネス日本語 I		2				
	ビジネス日本語 II		2				
	日本語プロジェクト学習 a		2				
	日本語プロジェクト学習 b		2				
	Basic Japanese a		4				指定された交換留學 生・短期留學生を対 象とする。
Basic Japanese b		4					
Basic Japanese c		4					
Basic Japanese d		4					
Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge)		2					
Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension)		2					
Intermediate Japanese a		4					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ (語学)	Intermediate Japanese b	4					
	Japanese Project a	2					
	Japanese Project b	2					

〔備考〕

- (1) 学科共通科目群Ⅰでは、第一外国語として英語（外国人留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。単位数を○で囲んである科目は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English Ⅱ, Oral Fluency Ⅱ, TOEIC Ⅱを履修するためには、履修前提条件として、それぞれのⅠを修得していなければならない。Oral Fluency Ⅲ, Ⅳも同様に、同Ⅱ, 同Ⅲを修得していなければならない。
- (3) 日本語は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目を選択すること。
- (4) 日本語能力試験N2を有していない学生について、日本語力が十分な水準に達しているかどうかの判断は、個別になされる。日本語の履修については、別途語学教育センターの指示に従うこと。

(2) 学科共通科目群Ⅱ（情報）

情報化社会で必要な、パソコンやインターネットなどに関する知識とスキルを習得する科目を配置している。1年次には「コンピュータ技能Ⅰ」を必修として学ぶ。これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ (情報)	情報メディア論	2				4単位	必修2単位を含み4単位を選択必修
	コンピュータ技能Ⅰ	②					
	コンピュータ技能Ⅱ		2				

(3) 学科共通科目群Ⅲ（教養）

グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び，国際社会に生きる人間としての教養を身につけ，人文学を学ぶことの意義を明確にするための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅲ (教養)	ジェンダー論	2				4単位	2科目4単位を選択必修
	歴史・文化の視点	2					
	異文化理解	2					
	コミュニケーションの基礎	2					
	世界の中の日本	2					
	ビジネス入門	2					

2. キャリア形成科目群

学生生活を充実させ，キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現していくための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎ゼミⅠ	②				8単位	必修5単位を含み8単位選択必修
	基礎ゼミⅡ		②				
	就職キャリア演習 a			1			
	就職キャリア演習 b			①			
	留学プランニング	2					
	航空・空港キャリア概論 a	2					
	航空・空港キャリア概論 b	2					
	航空・空港キャリア実習	2					
	旅行・ホテル・観光キャリア概論	2					

3. 専門基礎科目群

(1) 専門基礎科目群 I (世界の文化と言語)

グローバル化の進んだ社会に適応するため、第二外国語と世界の文化について学ぶ科目群である。英語以外（留学生は日本語以外）の言語を第二外国語として学び、同一言語の初級2科目4単位を必ず履修しなければならない。グローバル化が進み、英語プラスもう一ヶ国語の外国語の能力が求められるようになってきている。第二外国語もぜひマスターしてほしい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群 I (世界の文化と言語)	文化人類学		2			10 単位	第二外国語一か国語4単位（同一第二外国語の I A, I B）を含み、10 単位以上選択必修
	宗教学概論		2				
	外国史概説		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌			2			
	倫理学概論		2				
	比較文化概論	2					
	日本地理	2					
	アメリカ文学概論	2					
	近代イギリス文学		2				
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II	2					
	ドイツ語 III		2				
	ドイツ語 IV			2			
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
	フランス語 II	2					
	フランス語 III		2				
フランス語 IV			2				
スペイン語 I A	2						
スペイン語 I B	2						
スペイン語 II	2						
スペイン語 III		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群 I (世界の文化と言語)	ポルトガル語 I A	2				※外国人留学生は、第二外国語一か国語に替えて、「学科共通科目群 I (語学)」より 2 科目 4 単位を選択可能	
	ポルトガル語 I B	2					
	ポルトガル語 II		2				
	ポルトガル語 III		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II		2				
	中国語 III		2				
	中国語 IV			2			
	韓国語 I A	2					
	韓国語 I B	2					
	韓国語 II		2				
	韓国語 III		2				
	韓国語 IV			2			
	ハンガリー語 I A	2					
	ハンガリー語 I B	2					
	ハンガリー語 II	2					
	ハンガリー語 III		2				
	ハンガリー語 IV		2				
	ハンガリー文化研究 a	2					
	ハンガリー文化研究 b	2					
	ポーランド語 I A	2					
	ポーランド語 I B	2					
	ポーランド語 II	2					
	ポーランド語 III		2				
	チェコ語 I A	2					
チェコ語 I B	2						
チェコ語 II	2						
チェコ語 III		2					

〔備考〕

- (1) 第二外国語において、I Bを履修するには、I Aを修得していなければならない。
- (2) I Aは春学期、I Bは秋学期に担当している。外国語の学習においては継続性が重要であるので、一年間（春学期・秋学期）を通して履修することが望ましい。I A、I Bを修得し、さらに上のレベルの語学力を身につけたい学生はII（外国語によってはさらにIII・IV）を履修すること。また第二外国語を習得した上で、それぞれの言語圏の大学にも積極的に留学してほしい。

(2) 専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）

基礎的な国際教養を身につけるための科目群であり、国際社会・国際交流・国際協力・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎となる科目を配置している。なかでも「国際日本学」「政治学入門」「経済学入門」は必修科目である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅱ (国際教養関連)	国際日本学	②				14 単位	必修6単位を含み 14単位以上選択必修
	政治学入門		②				
	経済学入門		②				
	社会学入門		2				
	日本国憲法		2				
	中欧の社会と文化		2				
	スポーツ科学Ⅰ a		1				
	スポーツ科学Ⅰ b		1				
	法律学概論			2			
	経済原論 a			2			
	経済原論 b			2			
	日本の歴史 a		2				
	日本の歴史 b		2				
	International Volunteering		2				

4. 専門科目群

国際交流学科の専門科目は5科目群に分かれている。うち「専門科目群Ⅰ（国際交流・協力）」と「専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）」は、「国際交流・協力」と「国際コミュニケーション」の2つの領域にそれぞれ対応する科目群である。それぞれの領域での専門性を高めるために、専門科目群Ⅰより8単位以上、専門科目群Ⅱより8単位以上修得する必要がある。また、「専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）」と合わせて、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で、46単位以上修得することが必要である。さらに「専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）」と「専門科目群Ⅴ（教職関連）」がある。

(1) 専門科目群Ⅰ（国際交流・協力）

国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身につけるための科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際交流・協力)	国際交流論	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲ合計で46単位	専門科目群Ⅰより8単位以上選択必修
	国際協力論	2					
	国際交流・協力実践	2					
	日本と北米	2					
	日本と中南米	2					
	日本とヨーロッパ	2					
	日本とアジア	2					
	アジアの女性論	2					
	国際機構論			2			
	Introduction to NGO/NPOs		2				
	NGO/NPO Studies			2			
	NGO/NPO Practice			2			
	国際開発論			4			
	国際関係論			4			
	アジア国際関係論			4			
	アメリカ対外関係論			4			
	中欧地域文化研究			2			
	中欧地域社会研究			2			
開発と女性			4				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際交流協力)	文化交流史 a (日本：アジア)		2				
	文化交流史 b (日本：欧米)		2				
	日本文化論	2					
	西洋美術	2					
	文化遺産		2				
	国際法			4			
	国際経済学			2			

(2) 専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)

言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、日英の翻訳・通訳及び言語教育に関わる専門的な知識とスキルと、ビジネスに必要なコミュニケーション能力を身につける科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	言語学概論	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲ 合計で 46単位	専門科目群Ⅱより8 単位以上選択必修
	英語学概論 a	2					
	英語学概論 b	2					
	社会言語学		2				
	言語学			2			
	言語・非言語コミュニケーション論		2				
	第二言語習得論		2				
	国際コミュニケーション入門	2					
	異文化間コミュニケーション論		2				
	異文化適応論		2				
	翻訳の基礎 (英日)			2			
	観光通訳 (英日)			2			
	児童英語教授法Ⅰ		2				
	児童英語教授法Ⅱ		2				
	英米児童文学 a		2				
英米児童文学 b			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	発達心理学		2				
	日本語学概論 a	2					
	日本語学概論 b	2					
	日本語の音声		2				
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の文法 a	2					
	日本語の文法 b	2					
	日本語教授法 a (教授法)		2				
	日本語教授法 b (コースデザイン・評価)		2				
	日本語教授法 c (教材・教具)		2				
	日本語教育事情				2		
	日本語教育実習				4		
	Images of Japan : Literature and Film				2		
	Variable Topics in Culture and Society in Japan				2		
Selected Topics in Japanese Manga and Animation				2			

〔備考〕

「児童英語教授法Ⅰ」から「発達心理学」までの5科目は、児童英語指導員養成課程の科目である。

(3) 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）

より高度な英語力を実践的に身につけるための科目群である。英語で学び、英語で発信するスキルを身につけ、英語でのコミュニケーション能力向上をはかる。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (英語プロジェクト)	Intensive Weekend English		4			専門科目 群Ⅰ～Ⅲ 合計で 46単位 選択必修	
	Introduction to Academic English		2				
	English Project Education: Newspaper Writing I			2			
	English Project Education: Newspaper Writing II				2		
	Mentor Program I			2			
	Mentor Program II				2		
	English Teaching Methodology I			2			
	English Teaching Methodology II				2		
	Oral English for Children a			2			
	Oral English for Children b				2		
	Presentation Skills				2		

〔備考〕

「English Teaching Methodology I」から「Oral English for Children b」までの4科目は、児童英語指導員養成課程の科目である。

(4) 専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）

この科目群では専門的な知識を学んで、その実践と発展を図る。

国際交流演習 4 単位が必修である。3・4年次には、全員がいずれかの演習に所属して、綿密な少人数教育を受ける。他に、研修・インターンシップ科目、卒業論文を履修することもできる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ (ゼミ研修・実践)	国際交流演習Ⅰ			②		8 単位	必修 4 単位を含み、8 単位以上選択必修 卒業論文を履修しない場合、4 年次に専門科目群Ⅰ～Ⅳの内より卒業論文に替えて 4 単位を修得すること
	国際交流演習Ⅱ				②		
	国際交流研修 a (海外)	2					
	国際交流研修 b (海外)	2					
	国際交流研修 c (海外)	2					
	国際交流研修 d (海外)	2					
	国際交流研修 e (国内)	2					
	コミュニケーションインターンシップ	3					
	国際交流インターンシップ	2					
	卒業論文				4		

(5) 専門科目群V (教職関連)

専門の内容以外に、教育職員免許状取得などに必要な科目を配置する。本科目群の履修単位数は、卒業単位に含まれないが、教職課程を履修している者のみ各教科教育法を卒業単位に含めることができる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群V (教職関連)	教育原理		2			各教科教育法は教職課程を履修している者のみ履修することができ、かつ修得単位数を卒業に必要な単位数に算入することができる。	
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	青年心理学		2				
	教育制度		2				
	教育方法論			2			
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	公民科教育法Ⅰ			2			
	公民科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
	道德教育の理論と方法	2					
	特別活動論		2				
	生徒指導 (進路指導の理論および方法を含む)		2				
	教育相談 (カウンセリングを含む)			2			
	介護等体験			2			
教育実習Ⅰ (事前および事後指導を含む)				3			
教育実習Ⅱ				2			
教職実践演習 (中・高)				2			

VIII 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、年度の初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は年間の受講計画を立て、単位を取得する意思表示をする重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目の変更、追加、取消しなどが無いよう、入力をする前に授業時間割表に照らし合わせ再確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間が設けられているので、間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められない。また、修得した単位は分割することはできない。よって、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修登録では、授業科目を正しく入力すること。入力上の誤りがあると申請自体が無効になることがあるので十分注意すること。また、入力の際、時間がかかるとタイムアウトになる可能性があるので、登録する講義や時間割の下書きを予め準備してから入力すること。なお、大学内に設置されているPCの台数は限られているので、Web履修登録のために長時間占有しないこと。
- (6) 履修の都合によりコマ・コード番号が必要となる場合がある。コマ・コード番号とは、時間割表に授業科目と共に記載されている番号で、その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は、学業の意思なしとみなされて、退学処分となることがあるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等、履修についての質問は、それぞれのアドバイザーもしくは学部事務室に相談すること。

IX 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については、次年度または次学期において再び履修することができる。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は、必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

X 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。但し、病気または正当な理由による長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験はやむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。但し、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合に限り、再試験を受験することができる。
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。

- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものはすべて監督者の指定する場所におかなければならない。
- (3) 受験者は学生証または受験許可証を机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室，受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料が未納の者，授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者は，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
また，不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位の認定しない場合がある。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。
- (3) 学長は保証人を召喚して懲戒処分について通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。
- (5) その他，試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において，剽窃行為をすること。

※剽窃行為：引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反する行為。

XI 授業科目の単位認定と進級および留年

1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。

- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。

その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
 (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
 (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

XII 成績発表

- (1) 成績発表では、アドバイザーまたは演習担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。
 なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。
- | （合格） | （正規試験不合格） | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下 |
| A：89～80点 | T：追試験受験可 | E：未受験 |
| B：79～70点 | Z：追・再試験の受験資格なし | |
| C：69～60点 | 評価不能 | |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。
 詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合、代理人は学生証および委任状を持参すること。

